

当院の過去 5 年間の MRSA 検出率と POT 番号の推移について

◎近澤 秀己¹⁾、谷田 仁司¹⁾、桐畑 美里¹⁾、北川 勇一¹⁾
近江八幡市立総合医療センター¹⁾

【目的】2016 年 4 月に伊勢志摩サミットにおいて「AMR 対策アクションプラン」が策定され、2020 年までに黄色ブドウ球菌のメチシリン耐性率が 20%以下と目標値が明示された。当院では MRSA を Cica Geneus Staph POT KIT（関東化学）を用いて 2013 年 5 月より 5 年間解析を行ってきた。この POT 番号の経年推移と MRSA 検出率について調査したので報告する。

【方法】当院で入院、外来問わずに 2013 年 5 月～2018 年 6 月までに提出された培養検査（スクリーニング検査を除く）から検出された新規 MRSA を POT 法にて解析した 828 株と MRSA の検出率を算出し比較した。

【結果】2013～2017 年までの病棟から検出された黄色ブドウ球菌中に占める MRSA の比率は、78.0%、75.0%、66.9%、67.2%、59.7%と減少していた。同様に外来から検出された比率は、22.0%、25.0%、33.1%、32.8%、40.3%と増加していた。これを POT 法で解析し POT 1 の値が 93（院内

感染型 MRSA : NewYork/Japan clone）、POT 1 の値が 106（市中型 MRSA）の検出率と比較した。POT1 の値が 93 では 2013 年から 79.7%、62.2%、60.5%、49.1%、45.4%と減少しているのに対し、POT1 の値が 106 については、20.3%、37.8%、39.5%、50.9%、54.6%と増加していた。

【考察】感染対策が必要になる微生物は MRSA 以外にも多くあるが、MRSA では接触感染対策が必要不可欠であり院内感染対策を行う上では非常に難しく制圧は難しい。今回、検出率と POT 番号を比較することで院内型だけでなく市中型が増加してきており、地域での伝播が推測された。直近では POT 1 の値が 74 のタイプが外来で現れ新たな伝播が考えられることから、今後も新規発生患者への POT 法を実施することでアウトブレイクの察知ができ ICT へ有用な情報が提供できる検査であると考ええる。